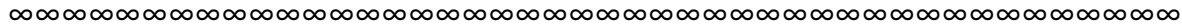
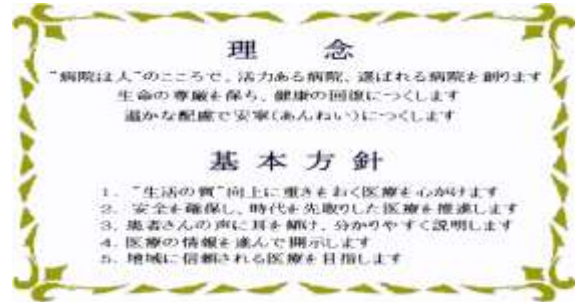


診察などでお待ちの間にお読み頂くパンフレットです。



平成 30 年 6 月 1 日 発行
KKR 札幌医療センター
〒062-0931
札幌市豊平区平岸1条6丁目3-40
電話 (011) 822-1811
<http://www.kkr-smc.com>

(30-6号)



健康関連用語 - シリーズ 103

6月(水無月)のこよみ

- 6月 6日 (水) 梅入
- 6月 17日 (日) 父の日
- 6月 21日 (木) 夏至

初夏の候、皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。6月となり暑さが日ごとに増してまいりました。毎年6月6日は「補聴器の日」となっております。そのいわれは、6月6日が耳介の形に補聴器が似ていることや耳に補聴器を装用すると、聞こえの弱った耳に(3月3日は耳の日)、さらに補聴器という耳の聞こえを補うもうひとつの耳をつけることから3月3日×2=6月6日という意味で制定されたそうです。

補聴器の歴史は意外にもとても古く、1600年くらいから補聴器の歴史を読み取れる文献が残っています。ただし、現在私たちが使っている耳の穴にすっぽりと収まるタイプで、しかも聞きやすく調整できる補聴器ではなかったことは言うまでもありません。最初は巻貝のようなものを使って音を集音していました。形状や色、素材、大きさまでさまざまです。中には噛んで使う骨伝導タイプの補聴器もありました。

私たちが使うような、音を拾い増幅させて聞きやすくする補聴器ができ始めたのは20世紀初期頃です。もともと電話の技術を応用して作られました。それまでは重度の難聴者には対応できなかったものが、電池とカーボンマイクを使うことによって「聞こえる」ことを可能にしたのです。その後は真空管補聴器が登場することで、さらに聞こえるようになりましたが、現在の補聴器とは比べ物にならない大きさでした。しかし、徐々に小型化も実現されていき、1950年代には現在とまではいきませんが、アクセサリ感覚で身に付けることが可能となりました。補聴器の普及が日本は遅れているといわれますが、補聴器の性能の向上や、今後の本格的な高齢化社会の突入に向けて今まで以上に需要が増えていくことでしょう。

当院は「敷地内全面禁煙」となっております

当院のホームページについて

情報管理課長 櫻庭 広宣

当院のホームページ（以下、HP）をご覧になったことはありますか？当院のHPは2013年（平成25年）にリニューアルオープンしており、病院に関するさまざまな情報を掲載しております。HPの管理は院内の情報管理課に所属するスタッフが担当し、情報の変更等があれば、リアルタイムに更新の対応をしています。

また、HPの内容は多岐にわたっており、ページ数の合計は約200ページで、ひと月のアクセス数はおおよそ20,000件にも及びます。その中でも1番にアクセス数が多いのは、「各科・診療のご案内」のページです。このページでは、診療科の特色や治療実績件数、スタッフの紹介などが掲載されています。また「睡眠時無呼吸外来」等の専門的な外来の紹介や、看護部、薬剤科、放射線科、検査科などといったコメディカル部門の紹介も掲載しています。

その他、外来受診や入院のご案内、医師の休診・代診情報等も閲覧することができますので、事前にご覧いただくと、実際に受診や入院する際の雰囲気イメージしやすいのではないのでしょうか。

なお、スマートフォンでも閲覧することができますので、ぜひご覧ください。

次回は、HPに掲載中の産科ブログ「すずらんにつき」をご紹介します。



当院ホームページTOP画面